

2001年度の環境会計

環境保全活動の コストと効果を把握します。

環境会計とは

環境保全を効果的に推進するためには、活動のためのコスト、環境保全効果、経済効果を把握する必要があります。また、環境保全活動の結果を、株主の皆様へ報告するためにも、環境会計は重要です。コスモ石油では、2001年度から環境会計に取り組み、環境報告書などで情報を開示してきました。また、世の中では、環境会計のための基準が確立されていないため、環境会計の精度の向上にも取り組んでいます。

2001年度の環境会計¹

環境保全コスト

環境保全コストには、公害防止、製品の低硫黄化、環境研究開発などのコストが含まれます。2001年度は、投資額が10.6億円、費用額が471.9億円となりました。前年度と比較すると、投資額が13.7億円の減少、費用額が17.7億円の減少となっています。

環境保全効果

環境保全効果の経年比較を容易にするため、今年度より、環境負荷削減効果をCO₂換算²で計算しています。事業活動における環境負荷低減効果は、509.3万トンで、前年度よりも14.6万トンの削減効果をあげた計算になります。また、製品使用時の環境負荷低減効果は、7984.2万トンの削減となっており、前年度よりも214.8万トンの削減効果をあげた計算になります。

経済効果

コージェネレーション設備による省エネ効果が20.6億円、使用済み触媒のリサイクルによる廃棄処理コストの削減や、研究開発の特許収入などと合わせて、合計21.9億円の経済効果をあげています。

¹対象範囲は、コスモ石油(株)の所有する4製油所及び中央研究所、コスモ松山石油(株)です。関係会社は、当社製油所と関わりの深い部分のみコスト及び効果を抽出し、集計しました。

²スウェーデンで開発されたEPSという手法で計算しています。CO₂=1に対して、SO_x=30.3、NO_x=19.7、ベンゼン=33.8、COD=0.00935という換算値になります。

メッセージ

社会の一員として、地球市民の一員として、 私たちは環境先進企業を目指します。

20世紀は経済成長の時代であるとともに、母なる地球が有史以来初めて、その限界に直面しつつあるということに人間が気づいた時代でもありました。温暖化、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化、酸性雨、種の多様性の減退など、地球は現在、様々な警鐘を鳴らしています。これらはすべて、石油をはじめとする地球の恵みを享受し続けてきた人間が招いた現象です。しかし、これらの現象を通じて初めて、人間は、地球に対して切実な視線を持つことができたことも事実です。私たちは、石油という地球の恵みを利用して、産業の発展を支えてきた社会の一員であり、環境に対してネガティブな一面を持つ企業であるという認識のもとに、事業活動のあらゆる面に「環境」という視点を取り入れて革新を図っていきます。また、地球市民の一員であるという認識のもとに、グローバルな環境保全にも貢献していきます。

この冊子は、コスモ石油のお客様をはじめ、幅広い方々とともに、地球環境について考える一助とするために発行しました。私たちの活動を継続的に改善していくためにも、皆様のご意見をお聞かせ願えれば幸いです。



コスモ石油株式会社
代表取締役会長兼社長

園部 敬一郎